

## 総括

### ■ 種別

高度・専門機能「リハビリテーション（回復期）」を適用して審査を実施した。

### ■ 認定の種別

書面審査および3月9日に実施した訪問審査の結果、以下のとおりとなりました。

高度・専門機能「リハビリテーション（回復期）」認定

### ■ 改善要望事項

高度・専門機能「リハビリテーション（回復期）」  
該当する項目はありません。

#### 1. 病院の特色

貴院は2006年に開設され、リハビリテーション医療の中核医療機関としての活動を続けてきた。2012年には回復期リハビリテーション病棟入院料1の施設基準の届け出を行い、2017年に日本医療機能評価機構の病院機能評価の本体審査と付加機能評価の認定を取得されている。その後も、神経難病リハビリテーションセンターの開設、摂食嚥下支援センターが開設されるなど、これまでの実績は高く評価される。

今回は、本体審査に続いて高度・専門機能：リハビリテーション（回復期）の審査となった。体制はおおむね確立されており評価できるが、一部においては今後の取り組みが期待される点もみられた。今回の受審をきっかけとして、貴院の益々の発展を祈念したい。

#### 2. 良質な回復期リハビリテーションを提供するための組織運営

病院理念・基本方針のほか、回復期リハビリテーション病棟の運営についても別途定められ、パンフレット、入院案内、ホームページ等に掲載し周知に努めている。病院としてはリハビリテーション科専門医が3名登録されており、うち1名が病棟専従医として配置されている。看護師、療法士、管理栄養士、社会福祉士ほか各種専門職も適切に配置されている。医療安全管理体制および急変時の対応、安全な療養環境の整備などは適切である。診療情報管理士が配置され、医事課などにより各種データを管理する体制がある。なお、FIM評価については一部看護師と療法士の間で一致しない評価がみられたため、職種間の記載の統一を期待したい。教育研修体制は充実しており、認定看護師や認定療法士等の育成も積極的に実施され評

価したい。紹介患者の受け入れは入院支援ナースと社会福祉士の連携で円滑に行われている。また、急性期病院とは中播磨シームレスケア研究会などを通じて連携が図られている。自宅復帰後のケアの継続性についても退院調整ワーキング会議、退院前リハビリカンファレンスの開催などによる支援体制が確立している。さらに、自宅支援のために福祉用具の展示と相談機能を有するコム・プラザを併設していることは、貴院特有のサービスとして評価したい。

### 3. 回復期リハビリテーションに関わる職員の専門性

専従医はリハビリテーション科専門医であり、自らも担当医の一人として日々の診療に携わっている。また、チームカンファレンスで多職種から患者の生活状況や訓練の進捗情報を把握し、ケアや訓練計画の変更を指示して計画書への説明も行うなど、チーム医療の実践に適切に関与している。

看護・介護職は入院期間を通じて看護ケアに関する諸問題を明確にして適切に業務を遂行している。なお、介護職に関しては、専門的な役割の発揮に向けてさらなる検討を期待したい。看護の質の向上については各種認定看護師の取得に向けた組織支援が行われ、院内において教育・研修での講師活動や専門領域の看護計画・実践に際して認定看護師のフォローが行われるなど、取り組みは適切である。

入院中から退院に向けて、各療法士は、カンファレンスなどにより多職種と協働で意見交換を行い、訓練計画が作成され実施されている。なお、当日の患者情報については、看護師などとの双方向性のある連絡や相談を促進する仕組みについて検討されるとさらに良い。社会福祉士は入院前から患者情報を把握し、入院後もニーズに応じた社会資源の提供など、患者・家族に継続的な相談対応と援助を行っている。管理栄養士は専門性を発揮し、病棟業務を適切に実施されている。検査簿やアンケートの結果など患者の意見を取り入れた食事メニュー、献立の立案を行っており、また、各種研修会や学会に参加し自己研鑽に努めているなど、取り組みは評価できる。

### 4. チーム医療による回復期リハビリテーション・ケアの実践

多職種により入院時の初期評価が行われ、患者情報が共有される仕組みは整っている。社会福祉士のインテーク面接を通じて、患者・家族の希望を確認し支援計画に組み込む姿勢も見られる。初期評価やミニカンファレンスにより総合実施計画書が立案され、看護ケア、リハビリテーションが実施されている。また、リハビリテーション以外にも病棟レクリエーションや自主トレーニング等を行い、その日の予定をわかりやすく患者に明示するなど、工夫している。なお、今後は、夜間帯や早朝などの生活時間帯においても、生活場面への積極的な関与を期待したい。電子カルテを利用した情報共有体制は確立している。

多職種カンファレンスでは、患者の持つ課題について専門職種間における双方向の意見交換がより活発に行われ、新たな課題への合意形成を図る場とすることを期待したい。また、薬剤師や管理栄養士などのより積極的な参加について検討を期待したい。入退院支援スクリーニングにて問題点を抽出し、入院初期から家屋状況の把

握と家族の評価を行うなど、患者の個別性に配慮した評価を実施し、カンファレンスにて多職種で共有されている。また、地域連携室の社会福祉士が窓口となり、地域特性を踏まえた社会資源の支援がなされている。さらに、退院前には必要に応じて ADL 室に家族が宿泊して介護体験を行うなど、自宅復帰に向けた取り組みは評価したい。

# 1 良質な回復期リハビリテーションを提供するための組織運営

## 評価判定結果

1.1	良質なリハビリテーションを提供するための体制	
1.1.1	回復期リハビリテーション病棟の運営に関する方針が明確である	Ⅱ
1.1.2	良質な回復期リハビリテーション機能を発揮するために必要な人員を配置している	Ⅱ
1.1.3	リハビリテーションを提供するための組織体制が確立している	Ⅱ
1.2	安全で質の高いリハビリテーションを実践するための取り組み	
1.2.1	患者の安全確保に向けた体制を整備している	Ⅱ
1.2.2	患者の急変時に適切に対応できる仕組みを整備している	Ⅱ
1.2.3	安全で安心できる療養環境の整備に努めている	Ⅱ
1.3	質改善に向けた取り組み	
1.3.1	回復期リハビリテーションの質改善に必要なデータを収集し活用している	Ⅲ
1.3.2	回復期リハビリテーションに関する自院の課題の把握と対応策を検討している	Ⅱ
1.3.3	回復期リハビリテーションに関する教育・研修を行っている	Ⅱ
1.4	地域の医療機関等との連携とリハビリテーションの継続に向けた取り組み	
1.4.1	急性期病院と円滑に連携している	Ⅱ
1.4.2	自宅復帰後のリハビリテーション・ケアの継続に向けて地域サービス提供機関等と円滑に連携している	Ⅱ
1.4.3	自宅復帰が困難な患者のリハビリテーション・ケアの継続に向けて施設等と円滑に連携している	Ⅱ

## 2 回復期リハビリテーションに関わる職員の専門性

### 評価判定結果

2.1	回復期リハビリテーション病棟における医師の専門性の発揮	
2.1.1	医師は専門的な役割・機能を発揮している	II
2.1.2	医師は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	II
2.1.3	医師はチーム医療の実践に適切に関与している	II
2.1.4	医師は質向上に向けた活動に取り組んでいる	II
2.2	回復期リハビリテーション病棟における看護・介護職の専門性の発揮	
2.2.1	看護・介護職は役割・専門性を発揮している	III
2.2.2	看護・介護職は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	II
2.2.3	看護・介護職はチーム医療の実践に適切に関与している	II
2.2.4	看護・介護職は質向上に向けた活動に取り組んでいる	II
2.3	回復期リハビリテーション病棟における療法士の専門性の発揮	
2.3.1.P	理学療法士は役割・専門性を発揮している	II
2.3.1.0	作業療法士は役割・専門性を発揮している	II
2.3.1.S	言語聴覚士は役割・専門性を発揮している	II
2.3.2	療法士は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	II
2.3.3	療法士はチーム医療の実践に適切に関与している	III
2.3.4	療法士は質向上に向けた活動に取り組んでいる	II
2.4	回復期リハビリテーション病棟における社会福祉士の専門性の発揮	
2.4.1	社会福祉士は役割・専門性を発揮している	II
2.4.2	社会福祉士は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	II
2.4.3	社会福祉士はチーム医療の実践に適切に関与している	II

2.4.4	社会福祉士は質向上に向けた活動に取り組んでいる	Ⅲ
2.5	回復期リハビリテーション病棟における管理栄養士の専門性の発揮	
2.5.1	管理栄養士は役割・専門性を発揮している	Ⅱ
2.5.2	管理栄養士は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	Ⅱ
2.5.3	管理栄養士はチーム医療の実践に適切に関与している	Ⅱ
2.5.4	管理栄養士は質向上に向けた活動に取り組んでいる	Ⅱ

### 3 チーム医療による回復期リハビリテーション・ケアの実践

## 評価判定結果

3.1	初期評価とリハビリテーション計画の立案	
3.1.1	初期評価を適切に行っている	Ⅱ
3.1.2	リハビリテーション計画を適切に立案している	Ⅱ
3.2	専門職による回復期リハビリテーション・ケアの実施	
3.2.1	各職種により患者に必要なリハビリテーション・ケアを実施している	Ⅲ
3.2.2	リハビリテーションの進捗状況を共有している	Ⅱ
3.3	多職種による課題の共有と対応	
3.3.1	定期的な情報共有による新たな課題の評価・検討を行っている	Ⅲ
3.3.2	新たな課題の解決に向けたリハビリテーション・ケアを実施している	Ⅱ
3.4	自宅復帰に向けた多職種による協働	
3.4.1	自宅復帰とその維持に必要な患者固有の課題の評価・検討を行っている	Ⅱ
3.4.2	自宅復帰とその維持に向けた課題の解決のための具体的な取り組みを行っている	Ⅱ